

— 告 告 —



渡部 佳月 (わたなべ かつき)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
電気電子工学専攻  
博士前期課程二年  
群馬県立館林高等学校出身

# 「なぜ？」を突き詰める 恩師を手本に研究者へ。

「就職率が抜群のKITに進学すれば、一流企業に入って安定した生活が送れる」。正直、そんな安易な気持ちも入学動機のひとつにあった。しかし、一年次の研究室見学の授業で、現在、指導を受ける大澤直樹教授と出会い、人生観が百八十度変わった。

当時、大澤先生は「均一バリア放電現象」と呼ぶ特殊なプラズマ放電の発生を、世界で初めて大気圧空气中で成功させ、メカニズムの解明に取り組んでいた。熱のこもった先生の説明に、「誰も解き明かしていないものに自分も挑んでみたい」と、眠っていた好奇心が目覚ました。それからは、授業の分からない点や質問に教員が答えるオフィスアワーを積極的に活用し、大澤先生や研究室のゼミ生とも交

流を重ねる中で、「将来、先生のような研究者になる」との自画像が結ばれていた。そうだった。

三年次にはすでに大学院進学を心に決め、念願の大澤研究室に入った。早速、均一バリア放電現象の発生メカニズムの研究に加わり、解明のめどがつけられる地点まで

たどり着いた。その成果は、静電気学会や日韓の大学院博士課程の学生による研究会などで発表し、受賞歴も数々。「研究が深まれば深まるほど、「なぜ？」を突き詰めていく面白さから離れられなくなりま

した」。この四月からは博士後期課程に進み、研究者としてのセンスと経験を磨き、国際会議にもチャレンジしたいと抱負を語る。

あまりに優等生的な受け答えに、横道にそれたくなった。「趣味は」と振ると、「ドライブと絵です」と返ってきた。そして、描いたパステル画をスマホ画面で見せてくれた。

穏やかな海の上に、伸びやかに広がる、やさしい色調の空と雲。「実は高校進学の時、親や先生から美術系を勧められたんです」。純文学も好きで、石川県に来て金沢ゆかりの文豪・泉鏡花の作品も読んだという。

研究一筋の堅物と誤解したことや詫びねばならない。渡部さんが手本と尊敬する大澤先生も、「彼は研究活動に熱心で、とても頼りになる学生です。それと、多くの先輩から気軽に声がけをされる存在です」と、人間性にも二重丸がついた。

研究者の道を歩み始めている渡部さん。先生も認める研究力に加えて、身体に備わったみずみずしい感受性とコミュニケーション力が、これから羽ばたこうとする彼の武器になるに違いない。

研究一筋の堅物と誤解したことや詫びねばならない。渡部さんが手本と尊敬する大澤先生も、「彼は研究活動に熱心で、とても頼りになる学生です。それと、多くの先輩から気軽に声がけをされる存在です」と、人間性にも二重丸がついた。研究者の道を歩み始めている渡部さん。先生も認める研究力に加えて、身体に備わったみずみずしい感受性とコミュニケーション力が、これから羽ばたこうとする彼の武器になるに違いない。

**金沢工業大学**  
石川県野々市市扇が丘七-1  
電話番号(0776)2481-000

KIT  
キャンパス  
レポート  
文・杉村裕之